

Sun Server X4-8 Oracle® Solaris オペ
レーティングシステムインストールガイド

ORACLE®

Part No: E55360-01
2014 年 6 月

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Oracle Solaris OS のインストールについて	9
Oracle Solaris のインストールタスク表	9
サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン	10
OS のインストールオプション	10
単一サーバーへのインストール方法	11
Oracle System Assistant	12
OS のインストールの準備	15
Oracle Solaris のドキュメントの入手	15
インストールセッションのセットアップ	15
▼ ローカルコンソールのセットアップ	16
▼ リモートコンソールのセットアップ	17
BIOS の設定	20
▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード	20
▼ BIOS ブートモードの設定	21
Oracle Solaris OS のインストール	23
Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール	23
▼ Oracle Solaris OS をインストールする (Oracle System Assistant)	23
▼ Oracle Solaris OS をインストールする (手動)	28
▼ サーバースystemツールのインストール (オプション)	30
索引	33

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、Oracle の Sun Server X4-8 用の最新のファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントの入手方法を説明します。フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も記載されています。

- [5 ページの「Sun Server X4-8 モデル命名規則」](#)
- [5 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [6 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)
- [6 ページの「ドキュメントとフィードバック」](#)
- [6 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [7 ページの「サポートとトレーニング」](#)
- [7 ページの「寄稿者」](#)
- [7 ページの「変更履歴」](#)

Sun Server X4-8 モデル命名規則

Sun Server X4-8 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 4 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 8 は、プロセッサの数を意味します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバー (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバ

が含まれており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブ上にあります。

- My Oracle Support - <https://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト - My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X4-8	http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle ILOM のバージョンのドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle HMP のバージョンのドキュメントを参照してください。	www.oracle.com/goto/ohmp/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセット内の情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <https://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

寄稿者

主な執筆者: Ray Angelo, Michael Bechler, Cynthia Chin-Lee, Lisa Kuder, Mark McGothigan, Ralph Woodley。

寄稿者: William Schweickert, Anthony Villamor, Mick Tabor, Richard Masoner, Tamra Smith-Wasel, Denise Silverman。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2014 年 4 月。初版。
- 2014 年 6 月。製品リリースのための変更。

Oracle Solaris OS のインストールについて

このセクションでは、インストールプロセスの概要、サポートされている OS のバージョン、およびインストールオプションについて説明します。

- [9 ページの「Oracle Solaris のインストールタスク表」](#)
- [10 ページの「サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン」](#)
- [10 ページの「OS のインストールオプション」](#)

Oracle Solaris のインストールタスク表

次のタスクの表を使用して、Sun Server X4-8 に Oracle Solaris のサポートされているバージョンをインストールします。

手 順	タスク	リンク
1	サポートされている Solaris OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を学習します。	10 ページの「サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン」
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	10 ページの「OS のインストールオプション」
3	Oracle System Assistant の概要およびそれを使用してサーバーを管理する方法について確認します。	12 ページの「Oracle System Assistant」
4	オペレーティングシステムのインストールの準備を行います。	「OS のインストールの準備」
5	オペレーティングシステムをインストールします。	「Oracle Solaris OS のインストール」

サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムのバージョン

このサーバーのリリース時点で、Sun Server X4-8 は次の Oracle Solaris OS のバージョンをサポートします。

Solaris OS のバージョン	エディション
Oracle Solaris 11	リリース 11.1 (SRU12)

最新のサポートされているバージョンについては、次を参照してください。

<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-8#tab:Operating-Systems>

注記 - サーバーに関する最新情報は、『Sun Server X4-8 プロダクトノート』で保持されています。プロダクトノートドキュメントには、サポートされているオペレーティングシステム、入手可能なファームウェア更新、およびサーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題についての詳しい情報が記載されています。詳細については、次にある『Sun Server X4-8 プロダクトノート』を参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs>。

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用して、OS を複数のサーバーにインストールする方法については、次を参照してください。 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none">■ ローカルインストール: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されません。追加のハードウェアが必要です。

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ■ リモートインストール: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスして補助付きインストールを実行するか、Solaris メディアを使用して手動による OS のインストールを実行します。 <p>注記 - Oracle System Assistant は、単一のサーバーでの OS のローカルまたはリモートインストールのためのもっとも簡単な方法です。</p>

関連情報:

- [11 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)

単一サーバーへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの配布方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件	詳細情報
Oracle System Assistant を使用したローカルでの OS インストール	モニター、USB キーボードとマウス、USB OSA デバイス、および OS 配布メディア。	12 ページの「補助付き OS インストール」 。
Oracle System Assistant を使用したりリモートでの OS インストール	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、USB OSA デバイス、および OS 配布メディア。	12 ページの「補助付き OS インストール」 。
サーバーに接続された物理的な CD/DVD ドライブを使用したローカルでの OS インストール。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および OS 配布メディア。	12 ページの「手動による OS インストール」 。
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモートでの OS インストール	ブラウザを備えたりリモートシステム上の Oracle ILOM リモートコンソール、接続された物理 CD/DVD ドライブ、OS 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。	12 ページの「手動による OS インストール」 。
ネットワーク PXE インストール	ネットワークで使用可能な PXE イメージ。	Solaris のドキュメントを参照してください。 http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。Solaris OS インストールメディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。Oracle System Assistant によりインストール手順が案内され、必要に応じて必須のドライバがインストールされます。

関連情報:

[12 ページの「Oracle System Assistant」](#)

手動による OS インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、または CD/DVD イメージで提供します。サーバー用のほとんどのドライバはメディアに含まれていますが、新しいドライバを My Oracle Support サイトから入手できる可能性があります。

関連情報:

[「OS のインストールの準備」](#)

Oracle System Assistant

このセクションには、次のトピックが含まれています。

- [12 ページの「Oracle System Assistant の概要」](#)
- [13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [13 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、Oracle x86 サーバー向けの単一のサーバーでシステムをセットアップおよび保守するためのツールです。これは、Oracle の単一システム管理向けの製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです。

- Oracle Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant はサーバーにインストールされ、保守はオンライン更新によって行われます。

関連情報:

『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)。

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。

Oracle System Assistant にはローカルでもリモートでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーの側にいながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

Oracle System Assistant の取得

ほとんどの場合、Oracle System Assistant は、サーバーにインストールされています。サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

OS のインストールの準備

このセクションでは、OS のインストールの準備手順について説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールタスク表を確認します。	「Oracle Solaris OS のインストールについて」
2	インストールドキュメントを入手します。	15 ページの「Oracle Solaris のドキュメントの入手」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	15 ページの「インストールセッションのセットアップ」
4	BIOS を設定します。	20 ページの「BIOS の設定」
5	OS をインストールして更新します。	「Oracle Solaris OS のインストール」

Oracle Solaris のドキュメントの入手

Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポート対象バージョンのドキュメントは次から入手できます。

<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>

注記 - Oracle Solaris のドキュメントは、Oracle Solaris OS ソフトウェアに同梱の Documentation DVD にも収録されています。

インストールセッションのセットアップ

このセクションでは、ローカルまたはリモートインストールセッションをセットアップする方法について説明します。

ローカル OS インストールはサーバーで実行されます。リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールプラスアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブ、CD ISO イメージ、または USB イメージを使用して実行されます。

- [16 ページの「ローカルコンソールのセットアップ」](#)
- [17 ページの「リモートコンソールのセットアップ」](#)

▼ ローカルコンソールのセットアップ

この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動 (補助なし) インストールをセットアップします。ローカル OS インストールはサーバーで実行されます。

推奨されるローカルインストール方法は、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクです。

- 始める前に
- 『[Sun Server X4-8 設置ガイド](#)』の説明に従って、サーバーのインストールを実行します。
 - 次の項目を入手します。
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - CD/DVD ドライブまたは USB OSA デバイス上の OS メディア
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
1. サーバーがスタンバイ電源状態になっていることを確認します。
 2. ビデオモニターをサーバー前面のビデオコネクタに接続します。
 3. キーボードとマウスを、サーバー前面のいずれかの USB コネクタに接続します。
 4. CD/DVD ドライブをサーバーの前面にあるほかの USB コネクタに接続します (サーバーに DVD ドライブが組み込まれていない場合のみ)。

次の手順 [20 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ リモートコンソールのセットアップ

この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動 (補助なし) インストールをセットアップします。リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールプラスアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブ、CD ISO イメージ、または USB デバイス上の OS イメージを使用して実行されます。

リモートインストールとして推奨される手順は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用する手順です。

注記 - CD/DVD-ROM または CD/DVD-ROM ISO イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD/DVD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

始める前に 次の要件を満たしている必要があります。

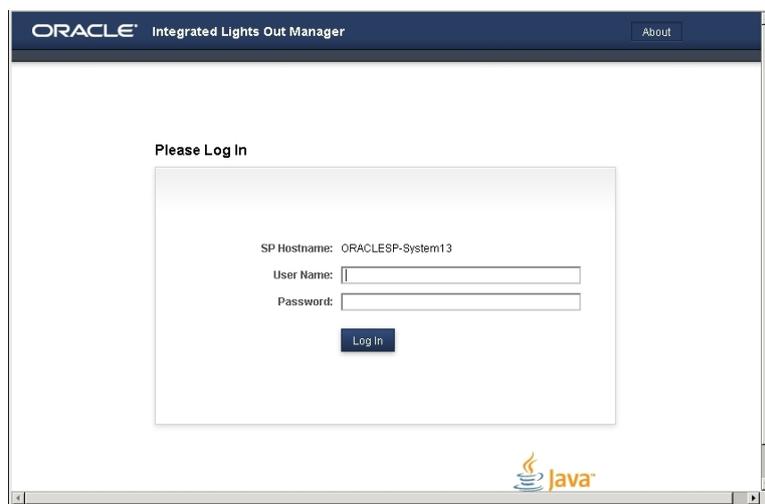
- 『Sun Server X4-8 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールを実行します。
- サーバースerviceプロセッサ (SP) を設定します。サーバーの Oracle ILOM ドキュメントの指示に従います。
- Oracle ILOM リモートコンソールプラスシステムは、Sun Server X4-8 の Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに接続された、ブラウザを使用する任意のクライアントになることができます。
- 使用しているサーバーでの Oracle ILOM のバージョンの『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) での説明に従って、リモートクライアントで Oracle ILOM リモートコンソールプラスを実行するための Java、ブラウザ、および構成の要件を満たしていることを確認します。

注記 - この手順に示されている画面イメージの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

1. Oracle ILOM にアクセスするには、サービスプロセッサの IP アドレスを Oracle ILOM リモートコンソールプラスシステム上のブラウザに入力します。

必要に応じて、セキュリティーのプロンプトに答えます。

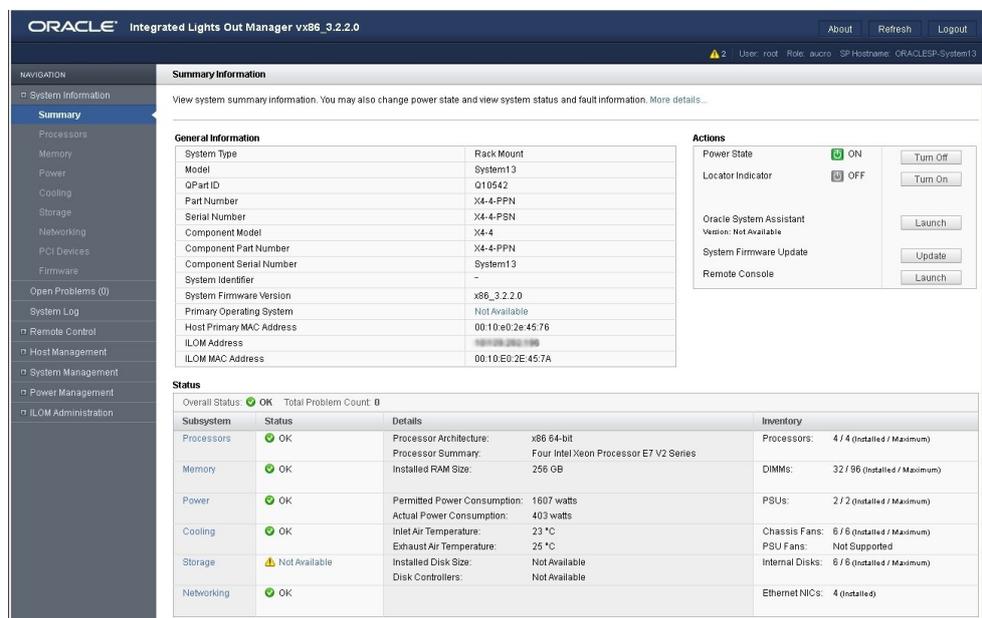
Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



2. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。

Oracle ILOM リモートコンソールプラス機能を使用するには、Console 役割の権限を持つアカウントを使用してログインする必要があります。

Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。



3. 「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

表示されるプロンプトに答えます。

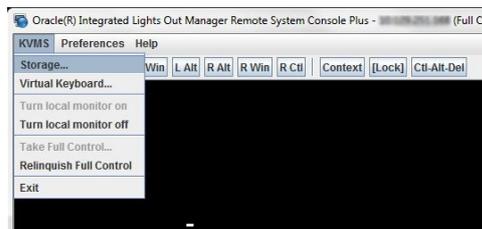
「Oracle ILOM Remote Console Plus」画面が表示されます。

4. ストレージメディアをリダイレクトするには、次のアクションを実行します。

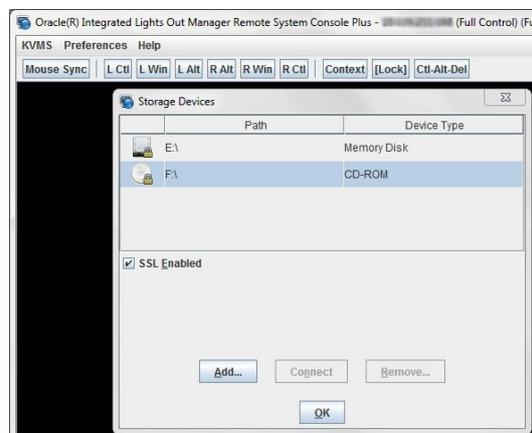
- a. リダイレクションセッションのフルコントロール権限があることを確認します。フルコントロール権限がない場合は、「KVMS」メニューの「Take Full-Control」をクリックします。

注記 - フルコントロール権限を持つプライマリユーザーの場合、「KVMS」メニューの「Take Full-Control」オプションは無効になっています。

- b. 「KVMS」メニューの「Storage」をクリックします。



「Storage Device」ダイアログボックスが表示されます。



注記 - 「Storage Device」ダイアログボックスには、Oracle ILOM リモートコンソールプラスクライアントで検出されたストレージドライブデバイス (CD、DVD、フロッピー、USB デバイスなど) が自動的に表示されます。ブート可能メディアがドライブ内に検出されない場合、ドライブ上にロックアイコンが表示されて、1) ドライブが存在すること、および 2) ドライブ内にブート可能メディアが見つからなかったことを示します。

- c. ストレージイメージ (CD/DVD イメージなど) を「Storage Device」ダイアログボックスに追加するには、「Add」をクリックします。
- d. 「Storage Device」ダイアログボックスからストレージメディアをリダイレクトするには、ストレージメディアを選択して「Connect」をクリックします。

注記 - 「Storage Device」ダイアログで「Connect」をクリックすると、「Connect」ボタンのラベルが「Disconnect」に変化します。

次の手順 [20 ページの「BIOS の設定」](#)

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認してください。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [20 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」](#)
- [21 ページの「BIOS ブートモードの設定」](#)

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意 - この手順では、BIOS の設定をデフォルト値にリセットし、以前にカスタマイズした設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

始める前に

- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細については、[15 ページの「インストールセッションのセットアップ」](#)を参照してください。

1. **サーバーの電源を入れます。**

ビデオ (KVMS または RKVMS) コンソールに POST メッセージが表示されます。

2. **メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**

BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。

3. **出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、F9 を押します。**

4. **変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 を押します。**

次の手順 [21 ページの「BIOS ブートモードの設定」](#)

▼ BIOS ブートモードの設定

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS ブートモードと UEFI ブートモードの両方をサポートしていますが、デフォルト設定はレガシー BIOS ブートモードです。Oracle Solaris 11.1 以降のオペレーティングシステムでは、UEFI BIOS ブートモードとレガシー BIOS ブートモードをサポートしています。

OS をインストールする前に、BIOS ブートモードを設定するためにこれらの手順に従います。

1. **サーバーの電源を入れます。**

コンソールに POST メッセージが表示されます。

2. **メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**

BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。

3. **BIOS 設定ユーティリティーで、左右の矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。**

「Boot」メニュー画面が表示されます。

4. 下矢印キーを使用して、「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択します。
5. Enter を押し、上下の矢印キーを使用して BIOS ブートオプションを選択します。
6. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。

次の手順 [「Oracle Solaris OS のインストール」](#)

Oracle Solaris OS のインストール

このセクションでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

手順	タスク	リンク
1	インストールを開始します。	23 ページの「Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール」
2	Oracle Solaris OS システムツールをインストールし、必要に応じて Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたソフトウェアパッケージに含まれているドライバにアクセスします。	30 ページの「サーバーシステムツールのインストール (オプション)」

Oracle Solaris OS のサポートされているバージョンのインストール

このセクションでは、次の手順について説明します。

- [23 ページの「Oracle Solaris OS をインストールする \(Oracle System Assistant\)」](#)
- [28 ページの「Oracle Solaris OS をインストールする \(手動\)」](#)

▼ Oracle Solaris OS をインストールする (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Oracle Solaris OS のバージョンの補助付き OS インストールを提供します。

- 始める前に
- サーバーストレージドライブを準備します。詳細については、『[Sun Server X4-8 設置ガイド](#)』を参照してください。
 - 「[OS のインストールの準備](#)」の手順を実行します。

- OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定しなければならない場合があります。詳細については、[28 ページの「Oracle Solaris OS をインストールする \(手動\)」](#)を参照してください。

- ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。

- リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、CD-ROM を選択していることを確認してください。

ISO イメージを使用している場合、リモートコンソールシステムからそのイメージにアクセスできることを確認します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択します。

- Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。Oracle System Assistant ネットワークアクセスを設定する方法の詳細については、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド \(http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs\)](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)』を参照してください。

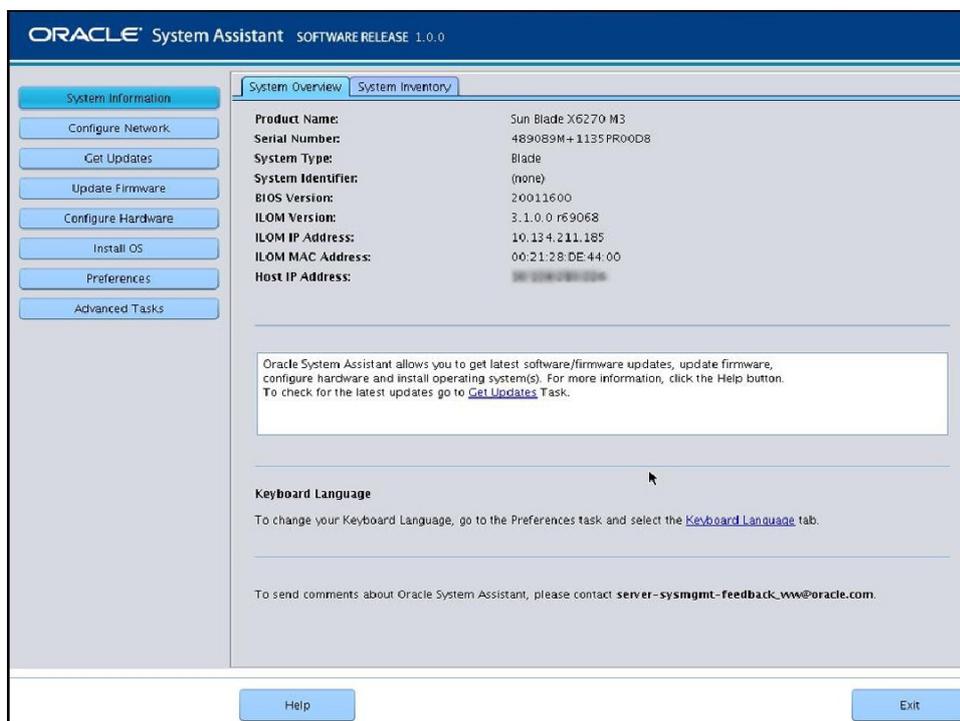
1. **サーバーがスタンバイ電源になっていることを確認します。**

2. **サーバーをブートします。**

ビデオモニターまたはリモートコンソール画面を注視して、F9 キーを押して Oracle System Assistant にアクセスするように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。

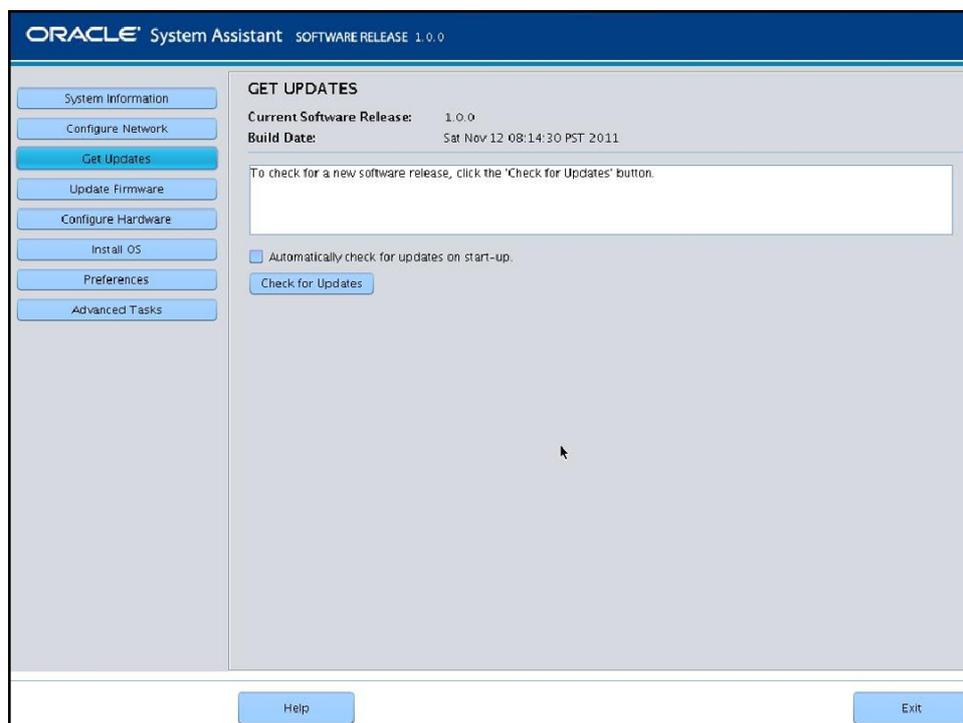
3. **プロンプトが表示されたら F9 キーを押します。**

Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。



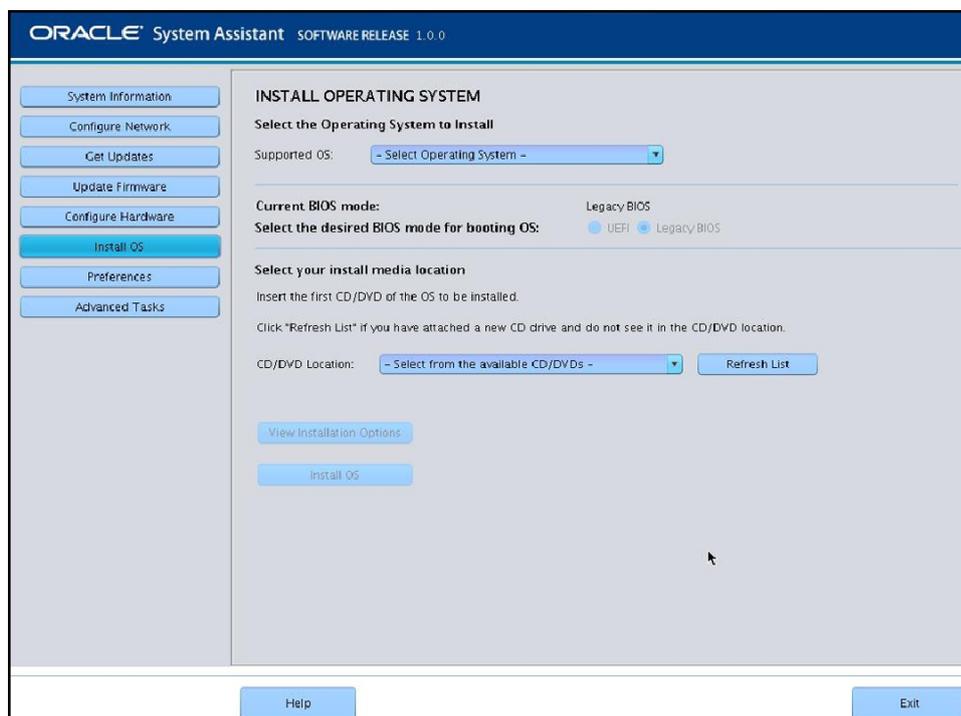
4. Oracle System Assistant アプリケーションを更新するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。

このアクションにより、OS のインストール開始前に、アプリケーションのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。



5. **サーバーのファームウェアを更新するには、「Update Firmware」ボタンをクリックします。**
このアクションにより、OS のインストール開始前に、サーバーのファームウェアが確実に最新のものになります。

6. **OS をインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。**
「Install OS」画面が表示されます。



7. 「Select Operating System」ドロップダウンリストから、OS を選択します。
8. BIOS ブートモードを選択します。21 ページの「BIOS ブートモードの設定」を参照してください。
詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。
9. 「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。
これは OS 配布メディアの場所です。CD/DVD ドライブを接続した場合は、ドロップダウンリストに表示するために「Refresh」ボタンのクリックが必要になることがあります。
10. デバイスを選択するには、「View Installation Options」をクリックします。
これは、OS をインストールするデバイスです。



注意 - データの損失。OS のインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

11. OS のインストールを開始するには、「Install OS」をクリックします。
12. プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

次の手順 [30 ページの「サーバーシステムツールのインストール \(オプション\)」](#)

▼ Oracle Solaris OS をインストールする (手動)

この手順を使用し、CD/DVD/USB インストールメディアまたは ISO イメージを使って OS をローカルまたはリモートにインストールします。

- 始める前に
- Oracle Solaris OS のインストールドキュメントを確認します。
 - Oracle Solaris 11.1: <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html>
 - あらかじめ BIOS 設定ユーティリティから BIOS ブートモード (UEFI またはレガシー) を選択してください (「OS のインストールの準備」を参照)。
 - あらかじめローカルまたはリモートインストール用に準備を整えてください (「OS のインストールの準備」を参照)。その後、次のいずれかを実行します。
 - ローカルインストール: 接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブまたは USB ポートに OS 配布メディアを挿入します。
 - リモートインストール: OS 配布メディアが CD/DVD または USB イメージの場合は、リモートクライアントの DVD-ROM ドライブまたは USB ポートに挿入し、Oracle ILOM リモートコンソールの「KVMS」>「Storage」メニューからマウントします。

OS 配布メディアの ISO イメージを使用する場合は、イメージが Oracle ILOM リモートコンソールの「KVMS」>「Storage」メニューからマウントされていることを確認します。
1. Solaris 配布メディアをサーバーの CD/DVD ドライブまたは USB ポートに挿入します。
 2. サーバーの電源を入れるか、またはリブートします。

リモートインストール方法を使用している場合は、Oracle ILOM を使用してサーバーの電源を入れたりリブートしたりすることができます。

BIOS メッセージが表示されます。



3. 選択リストが表示されるまで画面を注視し、F8 を押して「BBS Popup」を選択します。

注記 - BIOS メッセージ (BIOS メニュー選択リストも含む) はすぐに消えてしまいます。メッセージを見逃してしまった場合は、サーバーの電源を入れ直し、ブート中に F8 キーを押したままにして、BBS ポップアップメニューが表示されるのを待ちます。

しばらくして、「select boot device」メニューと、使用可能なブートデバイスのリストが表示されます。

4. 次のようにリストからブートデバイスを選択します。
 - ローカルインストールの場合は、デバイスのリストから Solaris 配布メディアを選択し、Enter を押します。
 - リモートインストールの場合は、デバイスのリストからクライアントのリモートでマウントされている仮想 CD/DVD ドライブまたは USB イメージを選択し、Enter を押します。

制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。

注記 - OS インスタンスのマウントに関するメッセージが表示されたら、**q** を選択します。OS インスタンスはマウントしません。

5. テキストまたは GUI ベースのインストールプログラムを使用して OS をインストールします。

インストールの詳細については、Oracle Solaris 11.1 のドキュメント <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/solaris-11-192991.html> を参照してください

▼ サーバーシステムツールのインストール (オプション)

LSI MegaRAID Storage Manager (LSI MSM)、MegaCLI、および Oracle Hardware Management Pack を含むサーバーシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Solaris OS ソフトウェアパッケージに含まれています。この手順を使用して、サーバーシステムツールにアクセスし、インストールします。

注記 - Solaris 11.1 の追加のソフトウェアは、Oracle Solaris Image Packaging System (IPS) によってインストールできます。詳細は、次を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E26502_01/html/E28984/index.html

1. 次のいずれかを実行します。

■ システムに Oracle System Assistant がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、Oracle System Assistant の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM

USB のマウント手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

- b. 適切な Solaris OS Tools フォルダに移動します。

`Solaris/OS_name/Tools`

ここで、`OS_name` は、インストールされた Solaris OS です。

■ システムに Oracle System Assistant がない場合:

- a. My Oracle Support サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細については、『Sun Server X4-8 設置ガイド』の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

- b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
- c. 解凍されたファイルシステム内で、Solaris OS Tools フォルダに移動します。

`Solaris/OS_name/Tools`

ここで、`OS_name` は、インストールされた Solaris OS です。

2. 次の表は、ツールをインストールする手順を示します。

ツール	手順
LSI MSM	<p>1. MSM/disk ディレクトリに移動し、<code>install.sh</code> ファイルを実行します。</p> <p>これにより、インストールスクリプトが開始されます。</p> <p>2. スクリプトの進捗に従ってインストールを完了します。</p> <p>詳細については、次にある LSI MSM インストール手順を参照してください。</p> <p>http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx</p> <p>注記 - Tools/MSM ディレクトリの <code>readme.txt</code> ファイルには、重要なインストール情報が含まれています。</p>
MegaCLI	<p>MegaCLI ディレクトリに移動し、<code>MegaCLI</code> ファイルを実行します。</p> <p>注記 - Tools/MSM ディレクトリの <code>readme.txt</code> ファイルには、重要なインストール情報が含まれています。</p>
Oracle Hardware Management Pack	<p><code>hmp-prerequisite-installation.txt</code> ReadMe ファイル (<code>hmp-tools/oracle-hmp-version/SOFTWARE</code> ディレクトリ内) を参照してください (ここで、<code>version</code> は、Oracle Hardware Management Pack のバージョンです)。</p> <p>詳細については、次にある Oracle Hardware Management Pack ドキュメントを参照してください。</p> <p>http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs</p>

索引

数字・記号

BIOS

最適なデフォルトのロード

Solaris, 20

ブートモード

設定, 20

ブートモード、設定 (Solaris) , 21

MegaCLI

インストール, 30

MegaRAID Storage Manager

インストール, 30

Oracle ILOM

リモートコンソール

Solaris, 17

Oracle Solaris OS

Oracle System Assistant, 23

OS のインストール, 23

手動によるインストール, 23

ドキュメント, 15

Oracle System Assistant

OS のインストール

Solaris, 23

Solaris, 12

インストール, 30

OS のインストール

Solaris, 9

Solaris 参照 Oracle Solaris

UEFI (Unified Extensible Firmware

Interface) BIOS

ブートモード

Solaris, 21

あ

インストール

MegaCLI

Solaris, 30

MegaRAID Storage Manager

Solaris, 30

Oracle Hardware Management Pack

Solaris, 30, 30

Oracle System Assistant, 30

ツールとドライバ

Solaris, 30

リモートセットアップ

Solaris, 17

ローカルセットアップ

Solaris, 16

オペレーティングシステム

サポートされているバージョン

Solaris, 10

か

概要

OS のインストール

Solaris, 23

さ

最適なデフォルト

ロード

Solaris, 20

サポートされているオペレーティングシステム

Oracle Solaris, 10

手動による OS インストール

Solaris, 12

た

単一サーバーのインストール, 11

ツールとドライバ

インストール, Solaris, 30

ドキュメント

Oracle Solaris OS, 15

は

複数のサーバーと単一のサーバー, 10

補助付き OS インストール

- Linux, 12
- Solaris, 23

ら

リモートインストール

- セットアップ
- Solaris, 17

レガシー BIOS

- ブートモード
- Solaris, 21

ローカルインストール

- セットアップ
- Solaris, 16